

質問・意見・感想など	回答
<p>○日野町9月定例会本会議にて「義務教育学校建設の費用について住民説明が足りないのでは？」という質問が議員から町長にあった。町長は「10月のシンポジウムで説明する」と答えていた。しかし、本シンポジウムにて、費用についての説明は一切なかった。なぜ費用についての説明をしなかったのか。</p> <p>○費用について説明すると言っておいて説明をしない、そのような大嘘をなぜつくのか。大嘘をついたことをどう思っているのか。町長に伺いたい。</p>	<p>○本シンポジウムでは最新の情報をお示しするとしておりました。各委員会で検討いただいている最新の情報は、お伝えできたものと考えています。増築部分の費用につきましては、現在設計において額を積み上げていただいているところであり、この会ではお示しする段階になっていないと申し上げさせていただきました。</p> <p>○当日までに積算ができていませんでしたので、本シンポジウムではお示しできませんでした。お示しできる段階になれば、議会、住民の皆様にご説明申し上げます。</p>
<p>○区切りがあるがゆえにギャップが発生する、校舎一体型なら区切りギャップはなぜ発生がなくなるのか</p> <p>○校舎分離型の場合、従来の小中学校と大きな状況変化が見られないと推測する。しかるに義務教育学校と謳うと中一ギャップがなくなるのはなぜか</p> <p>○果たして、学校行事や校長訓示等でギャップはなくなるのだろうか。区切りを境に「俺は中学生だ」「高学年だ」この意識過剰が問題で、そこをどう均等化するか</p>	<p>○小学校と中学校の違いについては、講演の中でもお話しいただいたとおりで、それが子どもたちに与える影響は、かなり大きいと考えます。そこに対応できないために、不登校等として表出する場合があります。校舎一体型の場合、1年生から9年生までが同じ生活空間にあり、また、教職員も1年生から9年生の様子を見ることができ、指導体制、指導方法については、教職員間の情報共有が随時できるので、「違い」を小さくすることができると考えます。また、教科担任制を前期課程の段階から取り入れたり、ティーム・ティーチングの授業を組み入れたりすることで、内容の理解が進むとともに、より専門的な内容の学習への移行がスムーズになると考えます。</p> <p>子どもたちは日々の生活の中で、後期課程（中学生）の姿に接することになるので、前期課程から後期課程に移る際に、戸惑うことが少なくなるかと考えています。</p> <p>○校舎分離型であっても、同じ学校であるので、ある程度指導体制、指導方法の工夫ができるので、中一ギャップは軽減されると考えます。</p> <p>○「区切り（以下、区切られた学年のまとまりをブロックと示します）」は、あくまでも教育活動、指導の充実や子どもたちの学びがより充実するために設定するものです。今でも、小学校において、低学年・中学年・高学年や、下学年・上学年というまとまりで活動することがあります。それを9年間のスパンで考えてブロックをつくり、その時々に必要な行事等も組み合わせ、子どもたちを育てていこうとするものです。内容によっては、2つ以上のブロックをまとめて活動することもあります。よって、区切りを過剰に意識することはないものと考えています。</p>
<p>○「義務教育学校」に向けて具体的な設立運営構想 ～「新」でなくても「改善」に～ 本町では、県内の義務教育学校の中では鳥取市立鹿野学園の「施設分離型」を望む。（鹿野小学校と鹿野中学校の統合） 日野町⇒根雨小学校（舎）⇒日野中学校の統合 黒坂小学校（舎）</p> <p>○日野学園について ☆教育課程に「分散型（分離型）」を活かし、教育の育成目標に照らして ・小学1年～小学4年まで（4年間）根雨校舎、黒坂校舎に分散登校 ・小学5年～中学3年まで（5年間）日野学園校舎</p> <p>○これからの教育100年計画において、新しい校舎新築より、ふるさとの良さを生かした教育課程を考え、交流、人材、教育人材などに、（人間）にお金を活かすことが大事だと思う。児童生徒が少なくなっていく時代に入り、「一斉授業」は合わず、複式学級に保護者は難点とされるが、人と関わり合うこと、個に応じる教育の大切さをメリットにする。</p> <p>○1階に会議室や多目的教室はいらない</p> <p>○新築校舎は教室までの人流が遠い。生徒・児童が教育現場の一番。</p>	<p>○未来を生きる子どもたちに、「社会の中で生きて働く知識及び技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など」「学んだことを社会や人生に生かそうとする学びに向かう力、人間性など」を育ていく必要があります。それらの資質・能力を育むためには、一定規模の集団の中で、多様な考えに触れる、議論するなどの活動が必要であると考えます。子どもたちの数が減少していく日野町において、一定規模の集団の中で生活する、多様な考えに触れるなどというのは、学校教育の中で意図的につくっていく必要があると考えています。しかも、それが日常的に、ということを考えれば、「施設一体型」の義務教育学校を設置することが望ましいという結論に至ったところです。もちろん、他にも義務教育学校のメリットとして示されていることが実現できるというのもその理由ですので、ご理解いただきますようお願いいたします。</p> <p>○今までの学習スタイルである「一斉学習」は今後ますます少なくなり、子どもたちが課題を見つけ、それを仲間とともに解決するという活動が増えていきます。その「仲間とともに解決する」という学習をするためには、一定規模の集団が望ましいと考えます。また、義務教育学校になっても、「個に応じた指導」は必要であり、また可能であると考えています。</p> <p>○教室の配置については、検討委員会で学校、保護者、地域の代表の皆様のお考えを伺いながら検討しています。</p>
<p>○学校教育法は時代に応じて見直しや改定がありますか。最新はいつでしょうか。</p> <p>○保小中一貫教育をずっと進めてきた日野町、今後保育所はどのタイミングで統合していきますか。</p> <p>○学校間ギャップに対して同フォローしていくか、具体的に計画や対策はありますか。</p>	<p>○学校教育法の最新の改正は令和元年、施行は令和2年4月1日です。</p> <p>○保育所を義務教育学校の校地に移すことについては、義務教育学校開校後にそこでの活動状況等を踏まえながら検討し、方向性を定めていきたいと考えています。</p> <p>○日野町では、平成21年度から小中一貫教育に、平成23年度からは保小中一貫教育に取り組んでおり、そ</p>

<p>○単元構想（案）はいつ作るものなんですか。教員の配属の決定は少し早いのですか。地域のマンパワーと学園とのコーディネーターが重要で大事で役割だと。</p> <p>○制服、体操服は変わりますか。何年生から制服を着用義務？</p> <p>○部活動の種類は増えますか。</p> <p>○教育課程（前期と後期）で保健室の役割、意味合いが変わってくると思います。特に開校時は手厚い心身のヘルスケアが必須だと思うのでよろしくをお願いします。</p>	<p>の中で保小、小小、小中連携に係る取組を行っております。ですので、開校までの間に、新たな計画や対策は考えておらず、今行っているものを深化させることで、令和5年度、スムーズにスタートできるようにしたいと考えています。</p> <p>○独自教科の設定については、教育課程検討委員会で検討することとしています。おおよその計画につきましては、令和4年度中には作成する予定です。</p> <p>教員の配置につきましては、令和4年度末の異動により決定しますので、令和5年3月末になります。現在、地域学校協働活動推進員の方を中心に、地域と学校とを結んでいただいております。今後も引き続きお願いしたいと考えています。</p> <p>○制服、体操服、いつから着用するかなど、開校準備委員会で検討することとしております。令和4年度の早期には結論を出し、注文等スムーズにしていけるようにいたします。</p> <p>○どのような部活動を実施していくかは、今後の検討委員会で検討し、最終的には学校の判断となります。</p> <p>○様々な子どもたちへの対応は、養護教諭のみで行うのではなく、学校体制として行っていく必要があります。保健室の機能につきましても、人員の配置との兼ね合いがありますので、子どもたちのケアができる体制の構築に努めていきたいと思っております。</p>
<p>○川口先生、ご講演ありがとうございました。</p> <p>義務教育学校化することへのメリットがぼんやりとしたものから明確なものへと変わりました。（3学期お世話になります）</p> <p>1点質問です。</p> <p>今年度、私は6年生の担任をしており、ここまでの半年間、最上級生としての責任と立場が、児童を大きく成長させてくれた場面を近くで見続けてきました。義務教育学校へ移行することでこの機会が失われるのではないかと、私も危惧しています。今日のお話の中で、白川郷学園の様に6年生に責任と立場を与え、成長につなげているとありましたが、具体的にどのようなことを行っているのか大変気になります。もし知っておられましたらお教えいただければと思います。また、白川郷学園に関わらずこの6年生の問題を解決するための取組の具体を知っておられましたら、併せて教えていただければと思います。</p>	<p>○ご紹介した論文（https://ci.nii.ac.jp/naid/120006843646）によりますと、まず、「4-2-3」の中で、「2」＝「5・6年生」＝「中ブロック」での区切りを大事にされているようです。例えば、委員会活動も同学園では5～9年生が担当し、7～9年生（後期課程）が企画・立案した内容を5・6年生は前期課程のリーダーという立場で理解したり吟味したり修正をし、下学年に伝達する役割を担っているとのことでした。6年生だけに焦点を当てた取り組みとしては、同学園では「全校たてわり掃除」が行われているようで、6年生を「クリーンリーダー」と位置付けたようです。毎日の清掃時間を担当し、計画会や反省会の運営を担っているとのことでした。区切りがどうなっても（4-5でも4-3-2でも4-2-3でも）、6年生は前期課程の最終学年であり、前期課程の修了式も全国でよく行われています。先生方が「どんな6年生であってほしいか」をしっかりと描き、そしてそれを共有しながら、日野学園独自の取組を考えられたらよいと思われまます。</p>
<p>○シンポジウムの講演内容が平成の頃にした方がよい内容だったように思う。あと1年半の内容ではないのでは・・・。</p> <p>○校舎新設？</p>	<p>○早め早めでこのような講演会を計画できなくて申し訳なかったですが、日野町の子どもたちを地域の皆様とともに育てていきたいと考えていますので、引き続き、このような機会を設けさせていただこうと考えています。</p> <p>○川口先生の資料では校舎新設となっていました。ご説明申し上げたとおり、校舎については既存校舎の改修と不足する教室を補うための増改築になります。</p>
<p>○義務教育学校とは何か、その内容は今よりもどう良くなるのか等々懇切に教えてもらいましたが、こうしたことはもっと以前、日野町に義務教育学校の創設の検討が始まった時点で、広く町民に説明、解説すべきだったと思います。</p> <p>○「地域と学校は運命共同体」の言葉がありました。その通りだと思いますが、逆に言えばすべての学校がなくなってしまう黒坂地区（日野産高も黒坂中学校も黒坂小学校もなくなった）をはじめ、根雨地区以外の地区はそれこそなくなる学校との運命共同体として活力を失ってしまいます。すでにそうなっていますが、義務教育学校の設立・運営が、根雨地区だけでなく日野町全体の活性化へと広げていくにはどうすべきか。全町をあげて考え、行動しなければならないと思います。</p>	<p>○昨年度開催した保護者、住民説明会においてご説明させていただいたつもりでございましたが、十分ではなかったかもしれません。</p> <p>○ご指摘いただいているとおりです。義務教育学校を1つの拠点として、日野町全体の活性化を図っていかねばなりませんし、学校の跡地を上手に活用しながら、それぞれの地域の活性化も図っていく必要があります。現在、日野町立学校跡地利用検討委員会において、検討を重ねているところです。</p>